

川崎市建築物環境配慮制度受付番号 24035

建築物名称	(仮称)川崎市幸区小倉三丁目計画新築工事
建築主	飛鳥建設株式会社 代表取締役 乗京 正弘
建築物の所在地	川崎市幸区小倉3丁目808-7、808-10
設計者氏名、建築士事務所名	中川 輝彦 株式会社ラカンデザイン研究所 一級建築士事務所
工事種別	新築
床面積の合計	2,224.54㎡
用途	老人ホーム
構造	木造
階数	地上4階
工事完了予定年月	令和8年4月
自然エネルギーの利用 (利用を検討した自然エネルギーの種類)	太陽光発電、太陽熱利用
自然エネルギーの利用 (利用を決めた自然エネルギーの種類)	なし

1-1 建物概要

建物名称	(仮称)川崎市幸区小倉三丁目計画新築工事
建設地	神奈川県川崎市幸区小倉三丁目808-7,808-10
用途地域	第一種中高層住居専用地域、準防火地域
地域区分	6地域
建物用途	病院
竣工年	2026年4月 予定
敷地面積	1,241 m ²
建築面積	637 m ²
延床面積	2,221 m ²

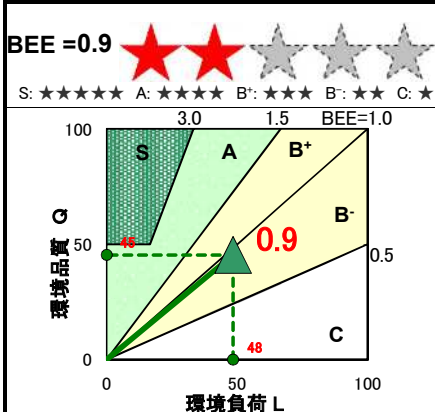
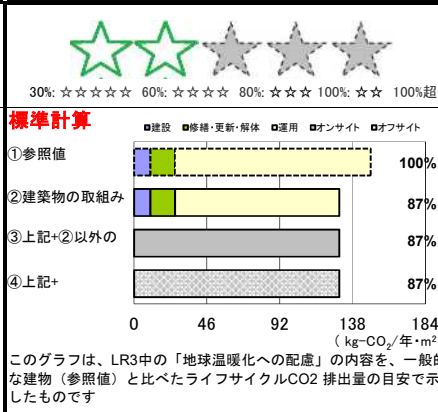
階数	地上4F
構造	木造
平均居住人員	90 人
年間使用時間	8,760 時間/年(想定値)
評価の段階	実施設計段階評価
評価の実施日	2024年8月28日
作成者	ランデデザイン研究所 半田
確認日	2024年8月28日
確認者	ランデデザイン研究所 中川

1-2 外観

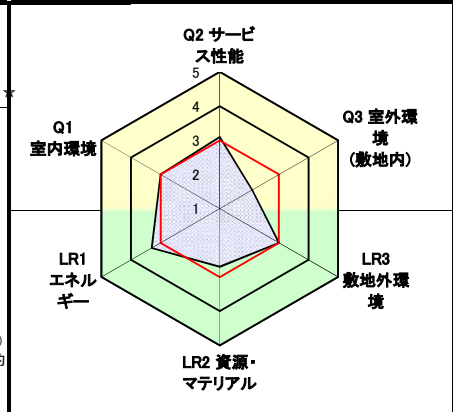
24035

外観パース等
図を貼り付けるときは
シートの保護を解除してください

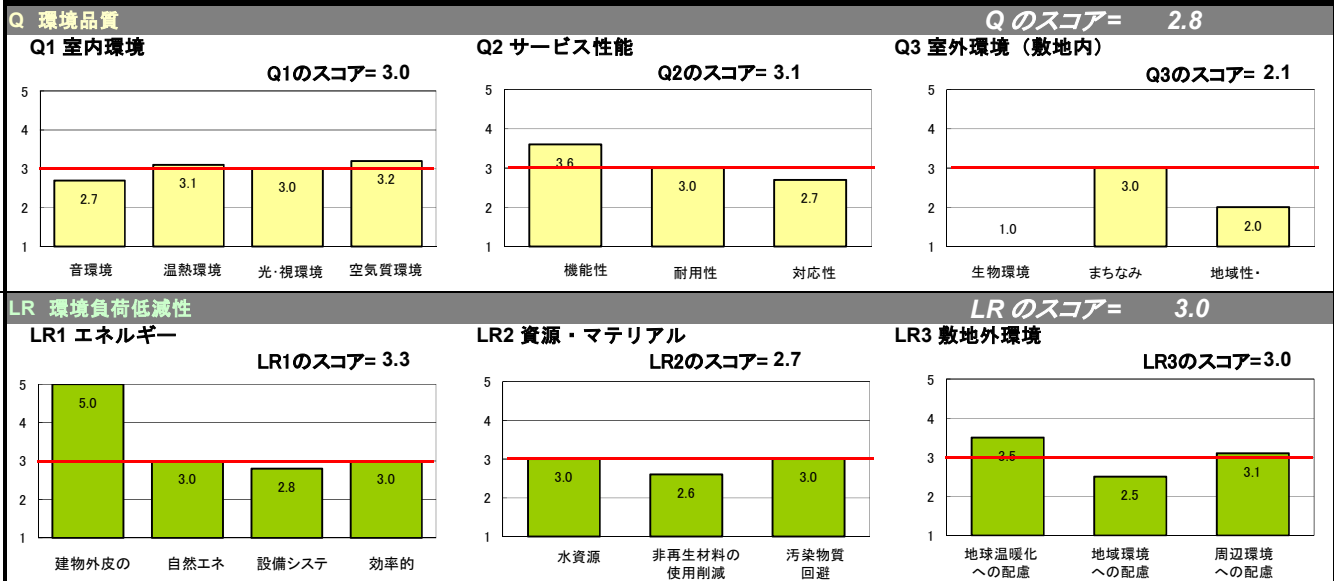
2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)



2-4 中項目の評価(バーチャート)



■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)

■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)

■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

CASBEE-川崎2023(v.4.0)

(仮称)川崎市幸区小倉三丁目計画新築工事

24035

重点項目についての環境配慮概要		実績重点項目スコア 合計/ 重点項目最高点のスコア合計	重点項目への 貢献点 注) (5点満点)
内訳対応項目	各項目について配慮した内容を記述してください。		
緑の保全・回復(G)		Gの平均点	2.1
Q-3 ■ 室外環境(敷地内)対策 1 生物環境の保全と創出 2 まちなみ・景観への配慮 3 3.2 敷地内温熱環境の向上	—	1.8/4.3	2.1
LR-3 ■ 敷地外環境対策 2 2.2 温熱環境悪化の改善	—	0.3/0.8	2.0
地球温暖化防止対策の推進(W)		Wの平均点	2.5
Q-1 ■ 室内環境対策 2 2.1 2.1.2 外皮性能 3 3.1 3.1.3 屋光利用設備 3.2 3.2.1 屋光制御	・断熱性能の高い外皮材料を使用	1.2/2.0	3.1
Q-3 ■ 室外環境(敷地内)対策 1 生物環境の保全と創出 3 3.2 敷地内温熱環境の向上	—	0.6/2.3	1.3
LR-1 ■ エネルギー対策 1 建物外皮の熱負荷抑制 2 自然エネルギーの利用 3 設備システムの高効率化 4 効率的運用	・効率のよい設備機器を導入	3.3/5.0	3.3
LR-2 ■ 資源・マテリアル対策 1 水資源保護 2 非再生性資源の使用量削減 3 3.2 フロン・ハロンの回避	—	2.6/4.7	2.7
LR-3 ■ 敷地外環境対策 2 2.2 温熱環境悪化の改善	—	0.3/0.8	2.0
資源の有効利用による循環型地域社会の形成(R)		Rの平均点	2.9
Q-2 ■ サービス性能対策 2 2.2 部品・部材の耐用年数	—	0.3/0.5	3.0
LR-2 ■ 資源・マテリアル対策 1 水資源保護 2 非再生性資源の使用量削減	—	2.2/4.0	2.7
LR-3 ■ 敷地外環境対策 2 2.3 地域インフラへの負荷抑制	・駐輪・駐車スペースを確保し車両出入時の混雑を避けた計画	0.3/0.4	3.3
ヒートアイランド現象の緩和(H)		Hの平均点	2.2
Q-3 ■ 室外環境(敷地内)対策 1 生物環境の保全と創出 3 3.2 敷地内温熱環境の向上	—	0.6/2.3	1.3
LR-1 ■ エネルギー対策 1 建物外皮の熱負荷抑制 2 自然エネルギーの利用 3 設備システムの高効率化 4 効率的運用	・高効率な設備機器を採用し、エネルギーの効率的利用に配慮	3.3/5.0	3.3
LR-3 ■ 敷地外環境対策 2 2.2 温熱環境悪化の改善	—	0.3/0.8	2.0

注)重点項目に該当する評価項目の得点(重み係数付)を集計し、当該項目の最高点の合計に対する貢献度を示した点数。

重点項目への貢献点の平均点 **2.4**

ライフサイクルCO2評価対象項目についての環境配慮概要		実績スコア合計/ 最高点のスコア合計	ライフサイクル CO2評価対象 項目への 貢献点 注) (5点満点)
内訳対応項目	各項目について配慮した内容を記述してください。		
建設段階			
Q-2 ■ サービス性能対策 2 2.2 2.2.1 躯体材料の耐用年数	—	0.1/0.1	3.0
修繕・更新・解体段階			
LR-2 ■ 資源・マテリアル対策 2 2.2 既存建築躯体等の継続利用 2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用	—	0.7/1.2	3.0
運用時のエネルギー			
LR-1 ■ エネルギー対策 1 建物外皮の熱負荷抑制 2 自然エネルギーの利用 3 設備システムの高効率化 4 効率的運用	—	3.3/5.0	3.3

注)ライフサイクルCO2評価対象項目に該当する評価項目の得点(重み係数付)を集計し、当該項目の最高点の合計に対する貢献度を示した点数。

スコアシート		実施設計段階									
配慮項目	重点項目				環境配慮設計の概要記入欄					全体	
	G	W	R	H		評価点	重み係数	評価点	重み係数		
Q 建築物の環境品質										2.8	
Q1 室内環境										3.0	
1 音環境										2.7	
1.1 室内騒音レベル											
1.2 遮音											
1 開口部遮音性能											
2 界壁遮音性能											
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)											
4 界床遮音性能(重量衝撃源)											
1.3 吸音											
2 温熱環境										3.1	
2.1 室温制御											
1 室温											
2 外皮性能					W						
3 ゾーン別制御性											
2.2 湿度制御											
2.3 空調方式											
3 光・視環境										3.0	
3.1 昼光利用											
1 昼光率											
2 方位別開口											
3 昼光利用設備					W						
3.2 グレア対策											
1 昼光制御					W						
3.3 照度											
3.4 照明制御											
4 空気質環境										3.2	
4.1 発生源対策											
1 化学汚染物質											
4.2 換気											
1 換気量											
2 自然換気性能											
3 取り入れ外気への配慮											
4.3 運用管理											
1 CO ₂ の監視											
2 喫煙の制御											
Q2 サービス性能										3.1	
1 機能性										3.6	
1.1 機能性・使いやすさ											
1 広さ・収納性											
2 高度情報通信設備対応											
3 バリアフリー計画											
1.2 心理性・快適性											
1 広さ感・景観											
2 リフレッシュスペース											
3 内装計画											
1.3 維持管理											
1 維持管理に配慮した設計											
2 維持管理用機能の確保											
2 耐用性・信頼性										3.0	
2.1 耐震・免震・制震・制振											
1 耐震性(建物のこわれにくさ)											
2 免震・制震・制振性能											
2.2 部品・部材の耐用年数											
1 躯体材料の耐用年数					R						
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔					R						
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔					R						
4 空調換気ダクトの更新必要間隔					R						
5 空調・給排水配管の更新必要間隔					R						
6 主要設備機器の更新必要間隔					R						
2.4 信頼性											
1 空調・換気設備											
2 給排水・衛生設備											
3 電気設備											
4 機械・配管支持方法											
5 通信・情報設備											

3	対応性・更新性									2.8	0.30	2.7	1.00	2.7
	3.1 空間のゆとり									2.4	0.30	2.4	0.50	
	1 階高のゆとり							—		2.0	0.60	2.0	0.60	
	2 空間の形状・自由さ							—		3.0	0.40	3.0	0.40	
	3.2 荷重のゆとり							—		3.0	0.30	3.0	0.50	
	3.3 設備の更新性									3.0	0.40	-	-	
	1 空調配管の更新性							—		3.0	0.20	-	-	
	2 給排水管の更新性							—		3.0	0.20	-	-	
	3 電気配線の更新性							—		3.0	0.10	-	-	
	4 通信配線の更新性							—		3.0	0.10	-	-	
	5 設備機器の更新性							—		3.0	0.20	-	-	
	6 バックアップスペースの確保							—		3.0	0.20	-	-	
Q3 室外環境(敷地内)										—	0.30	-	-	2.1
1	生物環境の保全と創出				G	W		H	—	1.0	0.30	-	-	1.0
2	まちなみ・景観への配慮				G				—	3.0	0.40	-	-	3.0
3	地域性・アメニティへの配慮									2.0	0.30	-	-	2.0
	3.1 地域性への配慮、快適性の向上								—	2.0	0.50	-	-	
	3.2 敷地内温熱環境の向上				G	W		H	—	2.0	0.50	-	-	
LR 建築物の環境負荷低減性											-	-	-	3.0
LR1 エネルギー										—	0.40	-	-	3.3
1	建物外皮の熱負荷抑制					W		H	断熱性能の高い躯体構成及び建築材を使用	5.0	0.20	-	-	5.0
2	自然エネルギー利用					W		H	—	3.0	0.10	-	-	3.0
3	設備システムの高効率化					W		H	—	2.8	0.50	-	-	2.8
4	効率的運用									3.0	0.20	-	-	3.0
	集合住宅以外の評価									3.0	1.00	-	-	
	4.1 モニタリング					W		H	—	3.0	0.50	-	-	
	4.2 運用管理体制					W		H	—	3.0	0.50	-	-	
	集合住宅の評価									-	-	-	-	
	4.1 モニタリング					W		H	—	-	-	-	-	
	4.2 運用管理体制					W		H	—	-	-	-	-	
LR2 資源・マテリアル										—	0.30	-	-	2.7
1	水資源保護					W	R			3.0	0.20	-	-	3.0
	1.1 節水								—	3.0	0.40	-	-	
	1.2 雨水利用・雑排水等の利用									3.0	0.60	-	-	
	1 雨水利用システム導入の有無								—	3.0	0.70	-	-	
	2 雑排水等利用システム導入の有無								—	3.0	0.30	-	-	
2	非再生性資源の使用量削減									2.6	0.60	-	-	2.6
	2.1 材料使用量の削減					W	R		—	3.0	0.10	-	-	
	2.2 既存建築躯体等の継続使用					W	R		—	3.0	0.20	-	-	
	2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用					W	R		—	3.0	0.20	-	-	
	2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用					W	R		—	1.0	0.20	-	-	
	2.5 持続可能な森林から産出された木材					W	R		—	3.0	0.10	-	-	
	2.6 部材の再利用可能性向上への取り組み					W	R		—	3.0	0.20	-	-	
3	汚染物質含有材料の使用回避									3.0	0.20	-	-	3.0
	3.1 有害物質を含まない材料の使用								—	3.0	0.30	-	-	
	3.2 フロン・ハロンの回避									3.0	0.70	-	-	
	1 消火剤					W			—	-	-	-	-	
	2 発泡剤(断熱材等)					W			—	3.0	0.50	-	-	
	3 冷媒					W			—	3.0	0.50	-	-	
LR3 敷地外環境										—	0.30	-	-	3.0
1	地球温暖化への配慮					W			高効率な設備機器の採用によるCO2の削減	3.5	0.33	-	-	3.5
2	地域環境への配慮									2.5	0.33	-	-	2.5
	2.1 大気汚染防止								—	3.0	0.25	-	-	
	2.2 温熱環境悪化の改善				G	W		H		2.0	0.50	-	-	
	2.3 地域インフラへの負荷抑制									3.0	0.25	-	-	
	1 雨水排水負荷低減						R		—	3.0	0.25	-	-	
	2 汚水処理負荷抑制						R		—	3.0	0.25	-	-	
	3 交通負荷抑制						R		駐輪・駐車台数を確保し車両出入時の混雑を避けた計画	4.0	0.25	-	-	
	4 廃棄物処理負荷抑制						R		—	2.0	0.25	-	-	
3	周辺環境への配慮									3.1	0.33	-	-	3.1
	3.1 騒音・振動・悪臭の防止								—	3.0	0.40	-	-	
	1 騒音								—	3.0	1.00	-	-	
	2 振動								—	-	-	-	-	
	3 悪臭								—	-	-	-	-	
	3.2 風害、砂塵、日照阻害の抑制									3.0	0.40	-	-	
	1 風害の抑制								—	3.0	0.70	-	-	
	2 砂塵の抑制								—	-	-	-	-	
	3 日照阻害の抑制								—	3.0	0.30	-	-	
	3.3 光害の抑制									3.7	0.20	-	-	
	1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策								屋外広告物照明の設置はない。	4.0	0.70	-	-	
	2 屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策								—	3.0	0.30	-	-	

評価する取組み	合計	合計2	No.1	No.2	No.3	No.4	No.5	No.6	No.7	No.8	No.9	No.10	No.11	No.12	No.13
Q2 サービス性能															
1.2.3 内装計画	2.0	2.0	○		－	○	○		－	○					
1.3.1 維持管理に配慮した設計	5.0		○	○	－	○	○	－	－		－	○			－
1.3.2 維持管理用機能の確保	4.0		－	－	－	○	－	○	○		－	－		○	－
2.4.1 空調・換気設備	－		○	－	－	－	－								
2.4.2 給排水・衛生設備	2.0	2.0	○	－	－	－	－	－	○						
2.4.3 電気設備	1.0	－	－	－	－	○	－	－							
2.4.5 通信・情報設備	2.0		○	－	○	－	－	－							
Q3 室外環境(敷地内)															
1 生物資源の保全と創出	1.0		－	－	1.0	－	－	－	－	－	－	－	－		
2 まちなみ・景観への配慮	3.0		2.0	1.0	－	－	－	－							
3.1 地域性への配慮、快適性の向上	1.0		－	－	－	－	－	1.0	－						
3.2 敷地内温熱環境の向上	1.0		－	1.0	－	－	－	－	－	－	－				
LR1 エネルギー															
2 自然エネルギー利用	－		－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
LR2 資源・マテリアル															
1.2.2 雑排水等再利用システム導入の有無			－	－	－	－	－	－	－	－					
2.1 材料使用量の削減	1.0		1.0	－	－										
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用			－	－	－	－	－								
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み	－				－	－									
3.1 有害物質を含まない材料の使用	－														
LR3 敷地外環境															
2.2 温熱環境悪化の改善	1.0		1.0	－	－	－	－	－	－	－	－	－			
2.3.3 交通負荷抑制	3.0		1.0	－	1.0	－	1.0	－							
2.3.4 廃棄物処理負荷抑制	2.0		1.0	1.0	－	－	－	－	－						
3.2.2 砂塵の抑制	－		－	－											
3.3.1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策	3.0		1.0	2.0											

主な指標

Q1 室内環境

2.1.3 外皮性能

窓システムS(－	窓の日射熱取得率(η)－														
U値(W/m2K)	窓システム－	屋根－	外壁－	床－											
住戸部分システムU値－	外皮UA値－		ηAC－	ηAH－											

昼光率 1.25%以上

自然換気有効開口比 1/15以上

Q2 サービス性能

1.1.1 広さ・収納性

執務スペース .0㎡ / 人 病床 10㎡以上 / 床 シングル .0㎡ ツイン .0㎡

1.1.2 高度情報通信設備対応

コンセント容量 0.0 VA/㎡

1.2.1 広さ感・景観

天井高 0 m

1.2.2 リフレッシュスペース

リフレッシュスペース 0.0% レストスペース 0.0%

2.2.1 躯体材料の耐用年数

想定耐用年数 0 年

2.2.2 外壁仕上材の補修必要間隔

想定必要間隔 0 年

2.2.3 主要内装仕上材の更新必要間隔

想定必要間隔 0 年

2.2.6 主要設備機器の更新必要間隔

想定必要間隔 0 年

3.1.1 階高のゆとり

階高 0 m

3.1.2 空間の形状・自由さ

壁長さ比率 0.0%

3.2 荷重のゆとり

床荷重 － N/m2

Q3 室外環境(敷地内)

1 生物資源の保全と創出

外構緑化指数 0% 建物緑化指数 0%

3.2 敷地内温熱環境の向上

空地率 0% 水平投影面積率 0% 地表面対策面積率 0% 舗装面積率 0%

LR1 エネルギー

1 建物外皮の熱負荷抑制

BPI/BPI_m 0.68 断熱等性能等級 対象外 相当

2 自然エネルギー利用

自然エネルギー直接利 0 MJ/年㎡ 採光を満たす教室数 0.0% 採光を満たす住戸数 0.0%

通風を満たす教室数 0.0% 通風を満たす住戸数 0.0%

3 設備システムの高効率化

BPI/BPI_m 非住宅 0.84 住宅 太陽光 .0kW 太陽熱等 .0kW 蓄電池 .0kW

LR2 資源・マテリアル

1.2.1 雨水利用システム導入の有無

雨水利用率 0.0%

2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用

特定調達品E ー エコマーク商品 ー 自治体指定の特定品目等 ー

2.5 持続可能な森林から産出された木材

使用比率 0.0%

3.2.1 消火剤

オゾン層破壊係数(C 地球温暖化係数(GWP)

3.2.2 発泡剤(断熱材等)

オゾン層破壊係数(C 地球温暖化係数(GWP)

3.2.3 冷媒

オゾン層破壊係数(C 地球温暖化係数(GWP)

LR3 敷地外環境

2.2 温熱環境悪化の改善

見付面積比 #DIV/0! 棟間隔指標Rw ー

地表面対策面積率 0.0% 屋根面対策面積率 #DIV/0! 外壁面対策面積率 #DIV/0!

見付面積S_b ㎡ 1 越風向と直交する最大敷地幅W_s 0 m 基準高さH_b 0 m

緑地 ㎡ 水面 ㎡ 保水性対策面 ㎡ 高反射対策面 ㎡ 再帰性反射対策面 ㎡